

## ●グローバル化時代の医療・検査事情 37

# 世界の医学部を巡って (14)

## Ⅲ アジア・オセアニア編 サモア独立国



な ら のぶ お  
奈 良 信 雄  
Nobuo NARA

南太平洋に浮かぶ島国のサモア独立国（以下サモア）は、面積が東京都のほぼ 1.3 倍にあたる約 2,830 平方キロメートルで、人口は約 20 万人である<sup>1)</sup>。

サモアの主要な島はウポル島とサバイイ島で、首都はウポル島にあるアピアである。ポリネシア系のサモア人が約 90%、その他に欧州系混血、メラネシア系、中国系、欧州系等などの民族が暮らしており、公用語としてはサモア語と英語が話されている。宗教はキリスト教（カトリック、メソジスト、モルモン教等）である。ニュージーランド、オーストラリアとの交流が深く、農業と沿岸漁業が主要な産業になっている。

サモア人の祖先がどこからやってきたかは明確でないが、ウポル島には紀元前 1000 年頃に人々が生活していたとされる。紀元 950 年頃にはトンガ人がサバイイ島を支配していたとの言い伝えもある<sup>2)</sup>。

1722 年にオランダ人が現在のアメリカ領サモアの小島に近づいてマヌア島と命名し、1768 年にはフランス人探検家がこの島に上陸したという。次いで 1787 年に同じくフランス人が現在の米領サモアのツツイラ島に上陸した。

1800 年代前半には多くのヨーロッパ人がサモアに定住していたといわれる。1860 年代からはアピアが捕鯨船の補給港として繁栄し、ドイツ、イギリス、アメリカが勢力を競った。1899 年にはドイツが西サモア（現在のサモア独立国）を、アメリカが東サモア（現在のアメリカ領サモア）を領有した。

その後、西サモアは 1919 年にニュージーランドの国際連盟委任統治地域となり、さらに 1945 年には国際連合信託統治地域となった。そして 1962 年

に独立し、1997 年に国名をサモア独立国として今日に至っている。

### I. サモアの教育制度

サモアの教育制度には、5 歳から入学する 8 年制の小学校（プライマリスクール）、5 年制の中等学校（カレッジ）があり、修了時には Samoa School Leaving Certificate (SSLC) の成績に応じて大学等の高等教育機関へ進学する<sup>3)</sup>。義務教育期間は、学年単位ではなく 5 歳から 14 歳までとされる<sup>4)</sup>。

小学校は公立校が 144 校、ミッション系の小学校が 18 校、私立校が 6 校の計 168 校で、中等学校は公立校が 23 校、ミッション系の学校が 16 校、私立校が 3 校の計 42 校ある。高等教育機関には、サモア国立大学と南太平洋大学農学部キャンパスがある。

サモアの教育政策として、ニュージーランドから独立した後もしばらくはニュージーランドのカリキュラムが続いていたが、2006 年にニュージーランドの支援を受けてサモア独自のカリキュラム枠組みが制定されて今日に至る。

### Ⅱ. サモアの医療事情

サモアは熱帯性気候で、年間平均気温は 26 ～ 27 度である。高温多湿の気候を反映し、特徴的な感染症がある。

たとえば、細菌の繁殖に伴う細菌性赤痢、アメーバ赤痢、コレラ、サルモネラなどの感染性胃腸炎が多く、汚染された飲食物を介する感染症として、A

型肝炎や腸チフスも発生している<sup>5)</sup>。また、蚊に媒介されるデング熱やジカウイルス感染症も熱帯地方に特有で、サンゴに共生している海藻に付くプランクトンが作るシガトキシンなどの毒で起こるシガテラ中毒もある。

このような熱帯地域に特有ともいえる感染症だけでなく、近年では肥満に伴う生活習慣病が国民の健康を脅かしている。2012年の統計では、国民の平均寿命は72.982歳、男性が69.884歳、女性が76.235歳である<sup>6)</sup>。穏やかな南国にしては寿命が短い印象である。

サモアでは2002年以前には医学部がなく、医師、とくに専門医の不足が大きな課題になっている。かつては、サモア人がニュージーランド、オーストラリア、フィジー、パプアニューギニアなどの医学部で教育を受け、卒業後にサモアに戻って医師になっていた。しかし、海外で教育を受けた卒業生はそのまま海外に留まることも多く、これが医師不足に拍車をかけていた。2008年のデータでは医師は85人、人口千人当たり約0.479人で、世界146か国中100位と深刻な医師不足を物語る<sup>7)</sup>。看護師・助産師は348人で、人口千人当たり約1.851人で、151か国中91位になっている。

首都アピアには国立の総合病院があるが、一般的な医療は小さな地域診療所で行われている(写真1)。医師が常駐しておらず、通常の診療は看護師が担当し、医師は週に1回程度巡回して診療に当たることがほとんどである。このため高度な医療を必要とする場合には、ニュージーランドやオーストラリアなどの海外へ行かなくてはならないのが現状である。



写真1 地域診療所

### Ⅲ. サモアの医学部

サモアには、2002年設立の公立/私立の Oceania University of Medicine (サモア医科大学と称される)と、2015年に設立された National University of Samoa School of Medicine (国立サモア大学医学部)の2つがある<sup>8)</sup> いずれも英語で教育され、海外からの学生も受け入れている。僕がサモアを訪れた2013年にはサモア医科大学しか存在しておらず、訪問当時の状況を中心にサモア医科大学を紹介したい<sup>9)</sup>。

#### ①サモア医科大学の設立

サモア医科大学は、西太平洋地区の医師不足を憂えたオーストラリア人医師 Taffy Gould により、2002年にサモア政府とアメリカのフロリダにあるe-ラーニング教材会社 Limited Liability Company (LLC) が共同して設立された (World Directory of Medical Schools には、私立として掲載されている)。

設立当初の2003年には入学生はわずか5名に過ぎなかったが、その後に増え、僕が訪問した2012年の入学生は31名になっていた。もっとも、全学生数は150名で、男性51名、女性99名であった。教員は20名、職員も15名と、とても小規模の医学校である(写真2～4)。失礼ながら、僕が通った小学校よりも小さかった。

#### ②サモア医科大学の入学制度

サモア医科大学には、オンライン形式での教育に臨床実習を加えるという際立った特徴がある。教育課程としては、学士入学者を対象とする4年制のコースと、中等教育修了者を受け入れて5年間で教育するコースがある。



写真2 サモア医科大学入り口



写真3 サモア医科大学構内



写真4 サモア医科大学教室廊下

設立された経緯に加え、教員数や設備の状況にもよるのだろうが、教育課程の前半はすべてオンライン教育で、後半の臨床実習のみが附属病院や地域の病医院で実施される。入学者は、看護師、理学療法士、救命救急士、薬剤師、医療助手など医療従事者を始め、ビジネス活動を経験してきた者などが多く、学生の平均年齢は40.5歳（22～69歳）となっている。

学生の出身国はサモアだけでなく、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカを始め、カナダ、日本、ポーランド、カタール、シンガポール、台湾などと多彩である。卒業後も、サモアに限らず、隣国のフィジーや、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカなどで医師として活躍している。訪問した際には学生とも面談したが、ニュージーランド出身の薬剤師などがいて、学生たちはいずれも向学心に燃えていた。

### ③サモア医科大学の医学教育

カリキュラム構造は図1に示すように、医学入門教育、基礎医学教育、臨床医学教育、臨床実習から構成されている。前半は臨床実習前教育として位置付けられ、モジュール制で114週に亘って教育される。後半の73週が臨床実習期間となっている。

教育課程はMoodle®で管理され、教材もオンライン教科書である。教育前半の臨床実習前教育は、Zoom®によるオンライン形式で行われる。アメリカのLLCから教員が講義する遠隔授業で、教員からは学生に質問するなど、双方向性の授業が意識されていた。

たまたま心筋梗塞の講義を見たが、実に良くできており、学生は食い入るようにPCにかじりついていった。事前の予習をした上でe-learning教育に臨んでおり、それなりの効果はあるようだった。もっとも、彼らに聞くと、“生身”の教員から教えてもらいたいとの当然ながらの要求があった。また、アメリカの時間に合わせているため、学生は早朝にパソコンに向かわなくてはならないなど、時差の調整にも不満があった。

オンライン講義は週に4日間あり、他の1日は臨床技能教育が実施されている。

基礎医学教育の後、臨床医学が臓器別のモジュール制で各6週ずつ行われる。オンラインで症例のシナリオが提示され、学生が病歴、身体所見、鑑別診断、臨床検査・画像検査、診断などを問題解決型学習（Problem-Based Learning: PBL）形式で実施されている。臨床推論能力の涵養が重視され、臨床実習に効率よくつながるように工夫されている。

なお、1学年から4学年前半までは、通年で臨床技能教育初級編と、文献調査などの研究活動が行われている。臨床実習前教育の終了後には、アメリカ医師国家試験（United States Medical Licensing Examination: USMLE）step1の受験が課せられている。特にアメリカで臨床実習を受ける学生は合格が必須で、そのために教員による個人指導などの支援が行われている。

ところで、COVID-19パンデミックの影響を受け、日本でも多くの医学部で2020～2021年に講義がオンライン形式で行われた。当初はオンライン講義に馴染めず、成果が心配された。しかし、オンライン授業を受けた学生に感想を聞くと、オンデマンドだと、いつでも何度でも繰り返して受講できるなどのメリットがあり、意外と好評な意見が聞かれた。講義資料がダウンロードできることも学生には大歓迎であった。

こうした利点にもよると思われるが、共用試験Computer-based Testing（CBT）の成績は例年より



| 学年 | 区分              | モジュール | 週数 | 科目                  | 通年                     | 通年          |
|----|-----------------|-------|----|---------------------|------------------------|-------------|
| 1  | 前臨床実習教育<br>114週 | 医学入門  | 12 | 生物学、化学ほか            | #20<br>臨床技能初級編<br>毎週一日 | #21<br>医学研究 |
|    |                 | # 1   | 6  | 生化学                 |                        |             |
|    |                 | # 2   | 6  | 分子生物学、臨床遺伝学         |                        |             |
|    |                 | # 3   | 6  | 生理学                 |                        |             |
|    |                 | # 4   | 6  | 解剖学、神経解剖学、発生学       |                        |             |
|    |                 | # 5   | 6  | 組織学、細胞生物学           |                        |             |
| 2  |                 | # 6   | 6  | 薬理学                 |                        |             |
|    |                 | # 7   | 6  | 微生物学                |                        |             |
|    |                 | # 8   | 6  | 免疫学                 |                        |             |
|    |                 | # 9   | 6  | 病理学                 |                        |             |
|    |                 | #10   | 6  | 呼吸器系                |                        |             |
|    |                 | #11   | 6  | 消化器系                |                        |             |
| 3  |                 | #12   | 6  | 心臓血管系               |                        |             |
|    |                 | #13   | 6  | 筋骨格系                |                        |             |
|    |                 | #14   | 6  | 神経系、神経科学            |                        |             |
|    |                 | #15   | 6  | 腎                   |                        |             |
|    |                 | #16   | 6  | 血液・免疫系              |                        |             |
|    |                 | #17   | 6  | 内分泌系                |                        |             |
| 4  |                 | #18   | 6  | 生殖系                 |                        |             |
|    |                 | #19   | 6  | 行動科学、法医学、医療倫理学ほか    |                        |             |
|    | 臨床実習教育<br>73週   |       | 11 | USMLE step1受験       |                        |             |
|    |                 | #22   | 1  | 臨床技能上級編             |                        |             |
|    |                 | #23   | 12 | 内科                  |                        |             |
|    |                 | #24   | 8  | 産科、婦人科              |                        |             |
|    |                 | #25   | 8  | 小児科                 |                        |             |
| 5  |                 | #26   | 4  | 救命救急                |                        |             |
|    |                 | #27   | 4  | 精神科                 |                        |             |
|    |                 | #28   | 8  | 家庭医療、地域医療           |                        |             |
|    |                 | #29   | 12 | 外科                  |                        |             |
|    |                 |       | 8  | USMLE step2 CK&CS受験 |                        |             |
|    |                 | #30   | 4  | 選択実習                |                        |             |
|    |                 | #31   | 4  | 選択実習                |                        |             |
|    |                 | #32   | 4  | 選択実習                |                        |             |
|    |                 | #33   | 4  | 選択実習                |                        |             |

図 1 サモア医科大学のカリキュラム構造

も良好であった。知識を得る目的としては、サモアで実施されているように、オンライン授業の有用性を無碍には否定できまい。

#### ④サモア医科大学の臨床実習

第4学年に、USMLE step1 受験のあと、1週間の臨床技能訓練が行われてから臨床実習に入る。

臨床実習は、56週間のコア診療科と、16週間の選択実習から構成される。コア診療科では、内科12週間、外科12週間、小児科8週間など、重要な診療科には十分な期間が設けられており、さらに救急医療4週間、地域医療8週間など、医師に必要な実践的スキルが教育される仕組みになっている。臨床実習では日常の診療活動に加え、PBLでのシナリオ演習、関連領域の補修講義などもある。

臨床実習では、学生が受け持つ入院患者の病歴、診療内容などをベッドサイドで教員にプレゼンし、教員からは矢継ぎ早に鑑別診断や検査、治療方針、予後などが質問される形式になっており、アメリカ

で見られるようなクリニカル・クラークシップの様式になっていた。僕が視察したときには、下肢に壊疽を起こした中年の女性患者を学生が診察していた。教員は、患者の前で鑑別診断を上げるよう学生に指示していた。肥満の患者でもあり、学生は、糖尿病、脂質異常症など動脈硬化性疾患を鑑別の第一に上げていた。

臨床実習数は臨床技能訓練をも含めると合計して73週に及び、アメリカのカリフォルニア州などが医師免許取得に必要としている基準を十分にクリアしている。これがために、アメリカからの学生も入学してくると思われる。

附属病院は、大学附属病院とはいうものの、失礼ながら野戦病院のような平屋建ての小さな病院で、エアコンはなく、扇風機がブンブン回っていた。これを改善すべく、現在の病院の隣には立派な新病院が建築中だった（写真5）。聞けば、中国の援助を受けて建てられているとのこと。



写真5 新築中のサモア医科大学附属病院



写真6 サモア保健省

ちなみに、その後訪問した保健省のビルも、中国の〇〇公司建築と書かれており、中国はサモアにまで大々的に支援を行っているようだった（写真6）。日本はと言えば、日の丸がついた消防車や公園パトロール車を寄贈しているようで、大きな箱モノをドンと寄付する大国の前に、少数精鋭主義で頑張っている独立行政法人国際協力機構（Japan International Cooperation Agency: JICA）が何だか小さく感じられてしまった。

#### IV. 教育評価

高等教育の質保証は、質の高い教育を行うために、全世界的に重要な課題になっている。サモアには Samoa Qualifications Authority (SQA) があり、教育の質保証、向上をめざした評価活動を展開している<sup>10)</sup>（写真7）。

僕が医学部を訪問した2013年当時は、SQAは医学部の評価を担当しておらず、サモア医科大学の教育プログラム評価はアメリカ教育省の国外医学教育評価委員会（National Committee for Foreign Medical Education: NCFME）による認証を受けたフィリ



写真7 サモア大学評価機構

（中央から Ahn 韓国高麗大学教授、その左が Lai 国立台湾大学名誉教授、左端が筆者）

ピンの評価機構（Philippine Accrediting Association for Schools, Colleges and Universities: PAASCU）による評価と認証を受けている。PAASCU は国際的な評価機関としての認定を受けるべく、世界医学教育連盟（World Federation for Medical Education: WFME）に申請中である<sup>11)</sup>。また、オーストラリアの評価機関である Australian Medical Council (AMC) とニュージーランドの評価機関 Medical Council of New Zealand (MCNZ) から認定されている。

こうした海外の評価機関から評価を受けていることで、海外から学生が集まってきているようだ。

#### V. サモア紀行

南太平洋に浮かぶ孤島の小国をご存じの方は、それほど多くはなかったのではないだろうか。かく言う僕も、名前だけは知っていたが、どこだか地図で指を指すことはできなかった。

それが一躍脚光を浴びることになったのは、2015年にイングランドで開催されたラグビーワールドカップでの対戦だと思う。それまで国際舞台で目立った実績のなかった日本代表チームが快進撃を遂げ、戦前の予想とは裏腹に、一次予選のプールCで南アフリカ、スコットランドに次ぐ3位に躍進した。もしも同じプールでサモアがスコットランドに勝てさえすれば、8強入りできた。残念ながらサモアは取えずに負けてしまい、8強入りの夢が絶たれ、決勝トーナメントに進めなかった。

もっとも、2019年に日本で開催されたラグビーワールドカップでは、日本代表チームはサモアも、そして強豪のスコットランド、アイルランドをも撃

破し、ベスト 8 に進出して決勝トーナメントに進むことができた。これには、日本中が感動の渦に巻き込まれた。さすがに準々決勝で南アフリカに敗れたものの、日本チームの活躍は大いに誇ってよいだろう。

ついでながら、大相撲の元大関小錦の祖先はサモアから来たそうで、サモア人は小錦みたいな体格が多い。しかもブヨブヨの肥満でなく、筋肉質のため、ラグビーはめっぽう強い。宿泊したホテルでも、夕方になると、従業員たちがラグビーの練習をしていた。タックルするたびに、“バシッ”、“バシッ”という音が響いた。

2013 年のこと、世界保健機関（World Health Organization: WHO）から、「サモア大学医学部を評価し、医学教育の改善を支援して欲しい」との依頼が舞い込んだ。評価チームは、世界医学教育連盟副会長 Ducksun Ahn 高麗大学教授、台湾医学教育評価機構代表 Chi-Wan Lai 国立台湾大学名誉教授の 3 人（写真 7）から構成されるとのこと。当時、日本の医学教育分野別評価制度の立ち上げで各国を奔走していた僕は、サモアに行く機会などあるまいと思い、二つ返事で“Yes”と答えた。

が、旅程を調べて真っ青になった。というのも、日本からサモアへの直行便などなく、ハワイ経由、韓国ーフィジー経由、ニュージーランド経由の 3 ルートしかなく、いずれでも 1 日以上の上長旅であることが分かった。しかも週に 2～3 回しかフライトがない。

やむなく、ニュージーランドにまず南下し、再び北上してサモアに向かうルートを選択した。南太平洋に浮かぶサモアでは、欧米間を頻繁に行き交う航空便の運行を妨げないように、サモア空港の国際便発着は、驚くなかれ、夜の 12 時～午前 2 時に限られている。そこで、夜に成田空港を出発して、翌日の早朝にニュージーランドのオークランドに着き、オークランドで一日観光してから、夕方にサモアに向かうことになった。

サモアへの入国は、思いのほか厳重だった。暑い国なので、サンダルで出かけ、さすがにサモア大学、保健省への訪問は失礼とばかり、革靴に履きかえることにしていた。すると、スーツケースに入れておいた靴までも、矯めつ眇めつ、入管職員は入念にチェックした。

通関後の出口には、WHO のサモア事務局がプラカードを持って迎えに来てくれていた。すでに午前 1 時を過ぎており、出迎えがなければ、不安に駆られたところだ。夜道を 4 輪駆動車でホテルへ向かった。真っ暗な道を、車のライトに照らされて、ときどき犬や、猫、ときには何だかよく分からない動物（まさかオオカミ？）が横切った。

どうにかホテルに着いたのは午前 2 時少し前。ホテルは海外からの客を目当てにしたもので、プールもあり、リゾート感満載で快適そのものだった（写真 8, 9）。朝は「コケコッコー」というニワトリの鳴き声で目覚めるという、人間本来の自然な生活様式に戻ることができ、目覚まし時計やモーニングコールなんぞはまるで無用だった。

朝食は、イングリッシュブレックファーストを思わせるような、ベーコン、ソーセージ、バイクドビーニズに、タロイモ、マンゴー、ドラゴンフルーツ、ココナッツなど、南国の食べ物がずらり（写真 10）。

タロイモとココナッツはサモアで欠かせないらしく、夕食にマグロの刺身をオーダーしたら、醤油にワサビならぬ、ココナッツミルクで和えたオカ Oka



写真 8 宿泊したホテル



写真 9 ホテル内のプール





写真 10 ホテルでの朝食

が出てきた。一瞬たじろいだが、郷に入れば郷に従えで、Oka も乙な味だった。

朝食後に評価チームの3名はホテルのロビーに集合し、WHO 事務局に赴いて評価方針の打ち合わせを行い、それからサモア医科大学に向かった。高温多湿気候に打って付けと思われる、サモア柄のシャツ、巻きスカートよろしくイエファイタガ（ラバラバとも）を着て、サンダルを履いた医学部長と面談した。サモア大学医学部のカリキュラム概要、実習内容などを確認し、評価の準備を整えた。

さー、いよいよ翌日から視察調査 !!

気合い十分で勢い込んだものの、医学部長と面会した翌日は日曜日。なんと日曜日は働いてはならないとの規則だそうで、いくら重要な任務を帯びた国際評価団とはいえ、公式訪問は罷り成らないと。勤勉な(?) 日韓台の3名は、思わぬ南国の慣習に顔を見合わせ、口をアングリするしかなかった。

しからばと、時間管理に厳格な3人は、一日たりとも無駄な時間を過ごさないよう、膝をつき合わせて日曜日のスケジュールを調整した。合意したのは、サモアの文化視察だった。もちろん誰も反対しなかった。

サモアとくれば南太平洋。広い海原を視察せずにはおかれまい。不思議なことに、3人ともに、スイミング・スーツを持参してきていた!? さすがに日韓台は準備に抜かりがない。マイクロバスをチャーターして、ビーチに向かった。首都アピアから海岸沿いの道を進むと、ほどなくして町並みは途切れた。対向車もほとんどないココナッツ林では、ブタがノンビリしていた(写真 11)。

やがてたどり着いた海岸では、青く澄み通った紺碧の海はどこまでも広く、青空に映えていた(写真



写真 11 ブタがノンビリ



写真 12 ビーチにて日韓台の評価員

12)。遠くを眺めると、遠くに白い波が見えた。最初はよく分からなかったが、しばらくして太平洋の大波を珊瑚礁がブロックしていると理解した。サモアは珊瑚礁でグルリと囲まれており、珊瑚礁の内側は、太平洋の真ん中ながら、波は穏やかそのもの。決して水泳は得意ではないものの、遠浅でもあり、荒波はブロックされているので安心して遊泳できた。

のんびりビーチで泳いだ後は、ウポル島の山間地帯に向かい、落差 100m ほどのティアビの滝を眺めた。山中の木には大きなカタツムリのアフリカマイマイがびっしりと張り付いていた。現地では、ココナッツからミルクを採集するとともに、ココナッツファイバーとして強靱な天然繊維がロープやマットなどに加工されており、重要な産業になっているようだった(写真 13)。

ウポル島南西部にはサモアでも最も有名なりターン・トゥ・パラダイス・ビーチがあり、空の青さと海がまさしく、ここは「楽園」かと思わず錯覚してしまうほどであった(写真 14)。

ところで、僕が小学生時代に熱中して読んだ小説に、「宝島」、「ジキル博士とハイド氏」がある。こ

の小説の著者であるロバート・ルイス・スティーブンスンは40歳のときにサモアのウボル島に移住し、44歳で没するまで、晩年をサモアで過ごした。彼は島人から「ツシタラ（語り部）」として好かれ、自らも争いごとを調停するなどの役割にも関わった。

サモアでの暮らしは健康を保つのに最適で、サモアをこよなく愛した彼は「びんの小鬼」、「声の島」など、多くの作品を発表した。彼の旧邸はスティーブンスン博物館としてアピア市街から約4kmほど南にあるバイリマ地区にあり、彼の資料が収められている（写真15）。彼の墓はアピア港を望む山の上にたたずみ、墓標には、亡くなる約10年前に彼自身が作ったレクイエムが刻まれている。

ニュージーランドやオーストラリアとの交流があるサモアでは、西洋料理を始め、多彩な料理を楽しむ。とくに海に囲まれていることから、魚料理には事欠かない。アピア港に突き出たレストランで、会食をした（写真16）。ビールはサモア産で、これも結構いけた。

レストランで食事をして、良い心持ちで歩いてホテルに戻ろうとしたら、一天俄にかき曇り、土砂降

りの雨に見舞われた。熱帯特有のスコールだった!! 用心のために折りたたみ傘を持ち歩いてはいたが、華奢な日本の傘は熱帯のスコールに脆くも壊れてしまった。

アピア市内には市場があり、タロイモや熱帯フルーツが所狭しと売られていた（写真17）。また、お土産物もあり、現地の木彫り細工を買った。ホテルでは夜に伝統的民族ダンスのFia Fiaと、ファイアーダンスが興じられた（写真18）。

ところで、朝昼晩と、南国フルーツ、タロイモ、



写真15 スティーブンスン博物館



写真13 ココナッツから繊維を集める女性



写真16 レストランで日韓台そろって会食



写真14 リターン・トゥ・パラダイス・ビーチ  
(青い空と紺碧の海)



写真17 アピア市内の市場





写真 18 民族ダンス Fia Fia

魚責めにあい、さすがに飽きた日韓台3人は、異口同音に、「今日こそは麺を食うぞ!!」と相成った。そこで、サモア医科大学にサモア随一の中華レストランを紹介してもらった。

門構えの立派な店で、勇んでウェイターにメニューに載っている麺を注文した。途端に、シェフが慌てて厨房から飛び出してきた。「アノー、当店の麺はインスタントですが、よろしゅうございましょうか」と。サモア人ならいざ知らず、本場の中華料理を知り尽くした客には、シェフも気後れしたに違いない。

日本から23時間もかけて来たのに、カップ麺とは!? やむなく、青椒肉絲、回鍋肉、棒々鶏、エビチリなど、サモアでも採れそうな食材の中華料理を頼んだ。これには、本場の3人ともが納得できる味だった。御馳走さまでした。

## 文 献

- 1) 外務省資料  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/samoa/data.html>  
 最終アクセス2021年6月21日
- 2) 国際機関南太平洋諸島センター  
[https://pic.or.jp/country\\_information/4808/](https://pic.or.jp/country_information/4808/) 最終アクセス2021年6月21日
- 3) 板垣暁歩：サモア独立国の数学教育の現状と課題ー協同問題解決能力に着目してー。鳴門教育大学国際教育協力研究第12号：163-168、2018.
- 4) <https://samoakiblog.com/school-educationsystem-samoa-features/> 最終アクセス2021年6月21日
- 5) 外務省、サモアの医療事情。  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/oceania/samoa.html> 最終アクセス2021年6月21日
- 6) サモア独立国の健康と病気  
<http://top10.sakura.ne.jp/Samoa-p3.html> 最終アクセス2021年6月21日
- 7) サモア独立国の医療体制と医療費  
<http://top10.sakura.ne.jp/Samoa-p4.html> 最終アクセス2021年6月21日
- 8) 世界医学校名鑑  
<https://www.wdoms.org/> 最終アクセス2021年6月21日
- 9) サモア医科大学ホームページ  
<https://oum.edu.ws/> 最終アクセス2021年6月21日
- 10) サモア評価機関(SQA)  
<https://www.mpe.gov.ws/links/public-bodies/beneficial/samoa-qualifications-authority/> 最終アクセス2021年6月21日
- 11) 世界医学教育連盟ホームページ  
<https://wfme.org/accreditation/timeline/> 最終アクセス2021年6月21日